

栄養課だより 学会報告

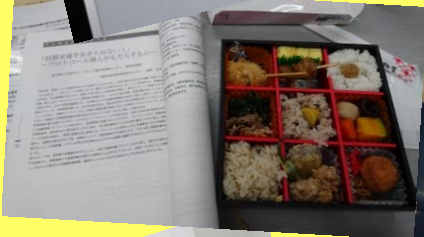
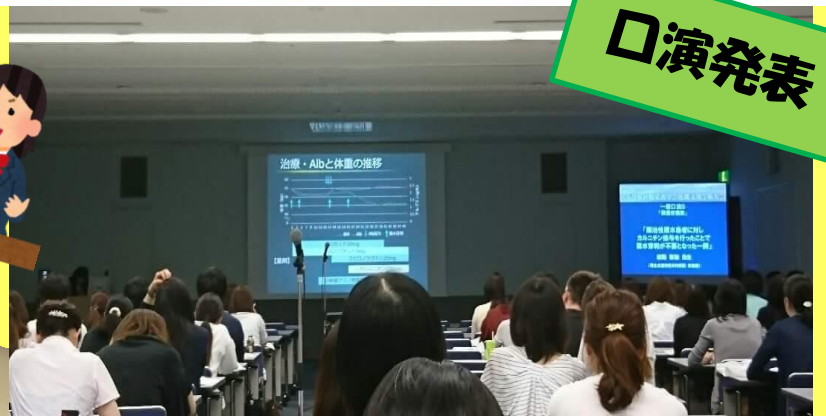
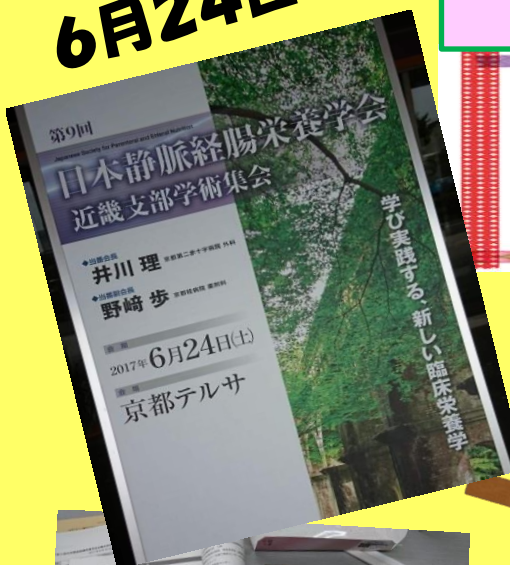
6月24日(土)

日本静脈経腸栄養学会学術集会

in 京都

難治性腹水患者に対しカルニチン投与を行ったことで行ったことで
腹水穿刺が不要となった一例

口演発表!



Q. 今後 NST 活動等でカルニチンを使用し多くを考えているか。

今回の症例のような肝機能が低下している患者やカルニチンの大半を貯蔵している筋肉が低下している患者

今回初めて学会発表の機会をいただき、口演発表をさせていただきました。発表を通して普段行っている業務がどれだけ結果として出ているのかデータにより可視化することで、客観的に評価・考察ができ、今後さらにどのように取り組むべきなのか考えるきっかけにもなりました。今後病院内の一栄養士として、NSTのメンバーとして、普段の業務の中で患者さんの満足度を考えると同時に、数字として結果を出すことにこだわっていきたくと思いました。また発表をするにあたり、ご指導・ご協力いただきました先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。
栄養課 松尾

カルニチンの投与により血清アルブミン値が上昇した一例
— エネルギー投与だけでは不十分 —

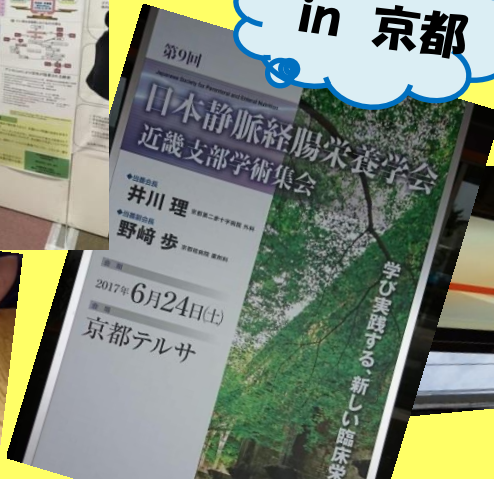
6月24日(土)

日本静脈経腸栄養学会学術集会



ポスター発表

in 京都



7月1日(土)~7月2日(日)

日本腎栄養研究会学術集会



ポスター発表

in 横浜



Q. カルニチンの投与でヘモグロビンが上昇するという話を聞いたことがあるがそれについてはどうか？

A. やや上昇がみられました。

Q. なぜ静注ではなく経管投与だったのか？

A. ルートを抜去した直後であり、患者様の負担軽減のため経管栄養での投与でした。

京都で開催された JSPEN の近畿支部学術集会、横浜で開催された日本腎栄養代謝研究会の学術集会に参加し、どちらもポスター発表をさせていただきました。私はまだ、病院経験が3年も経過していない中ですが、初めて症例報告をしてみようという症例を今年3月に経験したため今回の発表をすることができました。自身が発表ということでの学会参加は、今までとは違う感覚があり、また本番当日は多大な緊張で生きた心地がしませんでした…が、大変良い経験となり、取り組みや実施した内容を発表することの大切さも、発表することによって学ぶことができたと思います。次は是非、チーム医療として発表できればと思っていますので皆様ご協力お願いします。

栄養課 森本